

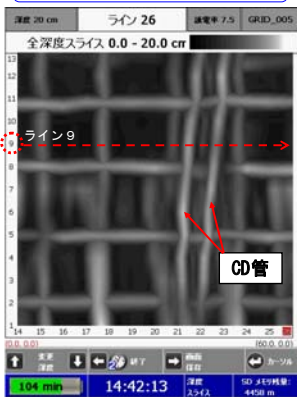
3D可視化ソフト探査例

※ フィルム不要【片面から探査可能】・素早い探査【60cm角 約4分】
 ※ どなたでも探査可能【免許も不要】・安全で・スライス画像も簡単解析！

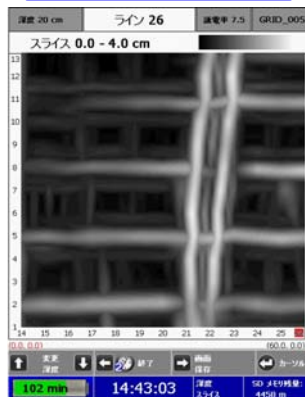


CD管（壁の表側から）

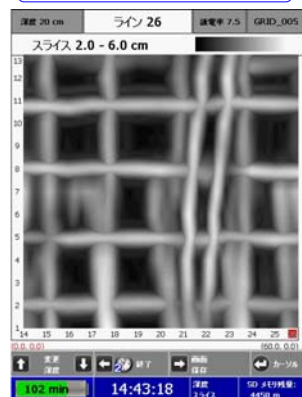
表面0cm～20cmの透視画像



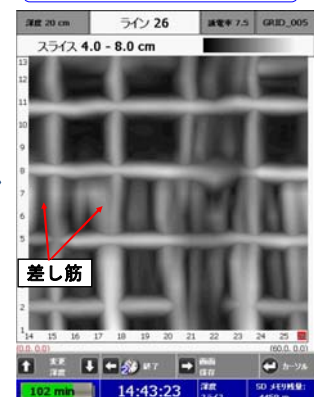
表面0cm～4cmのスライス画像



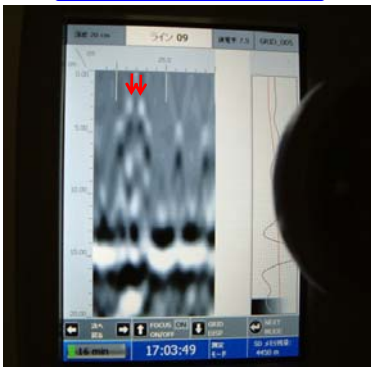
表面2cm～6cmのスライス画像



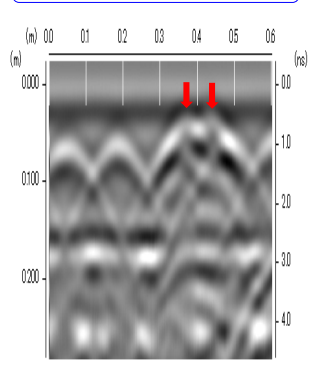
表面2cm～6cmのスライス画像



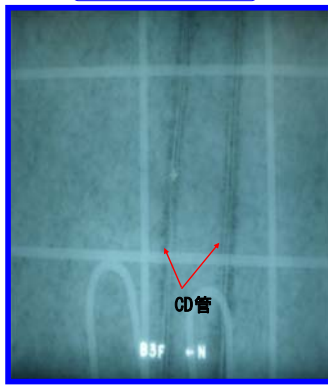
マイグレーション処理波形



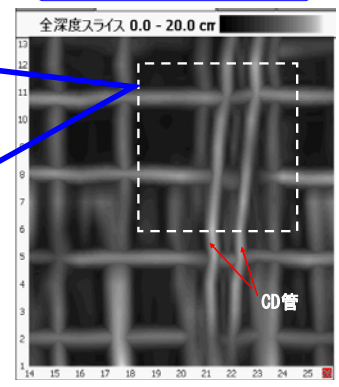
(参考)通常の2D断面波形



X線投影データ



3D可視化ソフト測定データ



最上段右画像の断面ライン(ライン9)の2D断面画像

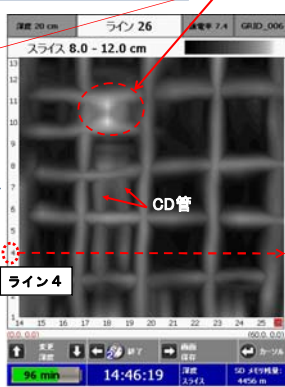
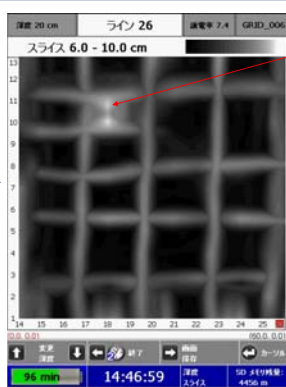
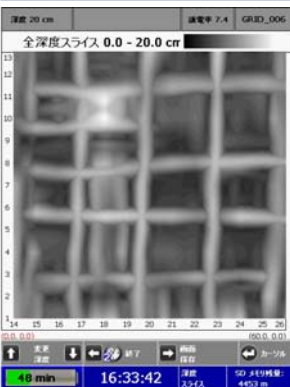
※ マイグレーション処理(左画像)で2本のCD管を捕捉、画像が鮮明に判別
 ※ 通常の2D断面表示(右画像)の為、鉄筋波形と合算し不鮮明

X線とSIR-EZ比較画像(右画像の白点線部分がX線投影部分)

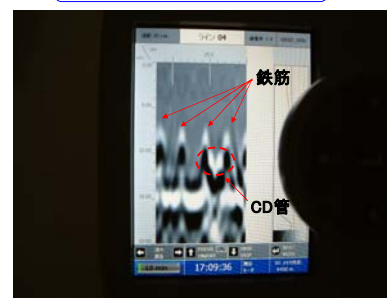
※ SIR-EZの探査時間:約4分(60cm×60cm)

CD管（壁の裏側から） 上図表面探査の少し上部位置をコンセントボックスの裏面から探査

スライス画像でボックス上面(コンセント)を確認

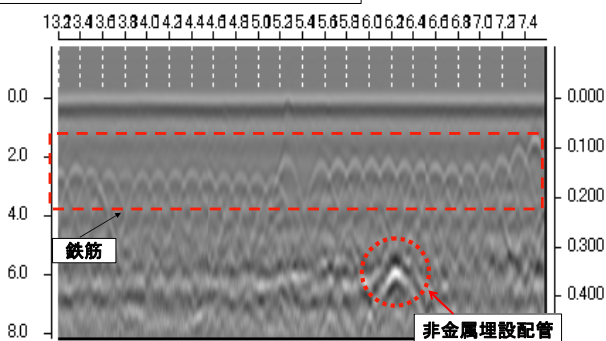


マイグレーション処理波形(断面)

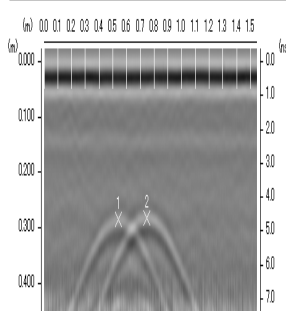


右画像の断面ライン(ライン4)の2D断面画像
 ※ 赤点線部分にCD管があるが断面表示では判断困難

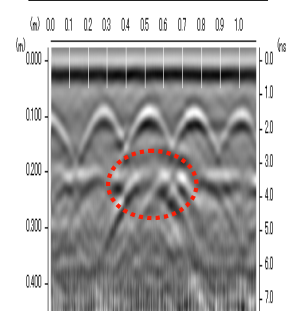
その他参考資料：地中内の埋設管



深度28cmにある動力線と電線管

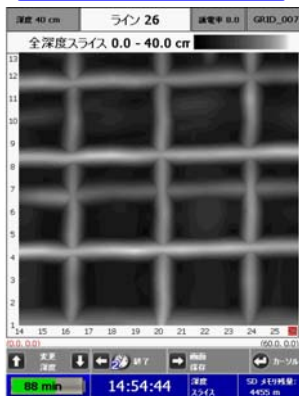


鉄筋コンクリート直下の配管



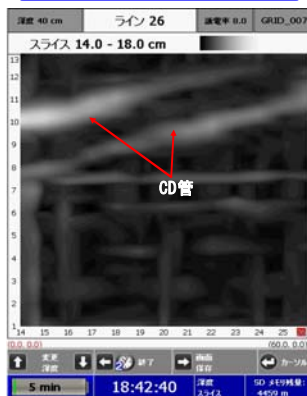
スラブの電配

表面0cm~40cmの透視画像



全深度透視図(白黒配色)

表面14cm~18cmのスライス画像



白黒配色

CD管を探査するポイント

全深度透視図だと確認が出来なかったCD管、画像スライスすることで容易に確認可能

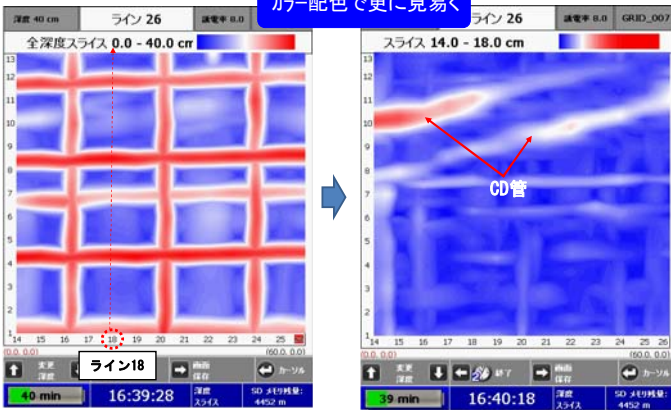
スライス(4cm幅)で受信信号のみを最適な感度に自動調整、CD管等の微弱な受信信号を増幅し更に見え易く

CD管が見えにくい理由

CD管(ジャバラ)内の配線は内部を波を打つように配線されている為、電波が電線に当たる箇所と当たらない箇所の違いから、所々表示が薄くなっていると推測される

(上部に空気層《比誘電率:1》が存在した場合、空気中を進むスピードがコンクリート内に比べ速い為、配線《比誘電率:∞》と打消し合う信号合算が生じ、一部の映像が見えなくなることが多い)

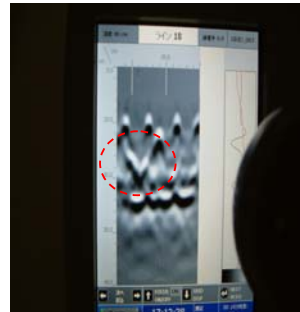
カラー配色で更に見易く



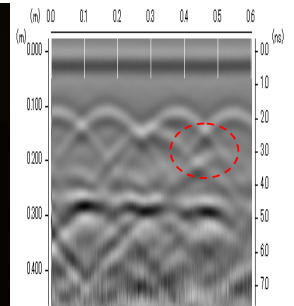
全深度透視図(カラー配色)

スライス画像(カラー配色)

マイグレーション処理波形



(参考)通常の2D断面波形

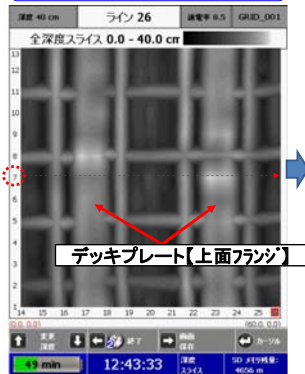


断面画像(ライン18)の2D断面画像

※ 赤点線部分にCD管があるが断面表示では判断困難
※ 3D表示でCD管画像が判断可能に!

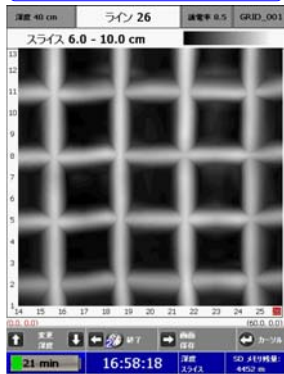
デッキプレート

表面0cm~40cmの透視画像



デッキプレート【上面フランジ】

表面6cm~10cmのスライス画像

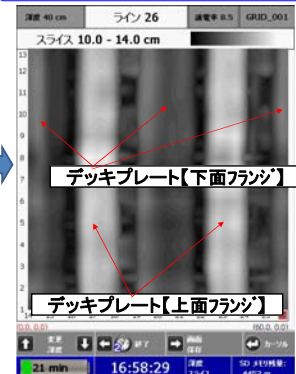


鉄筋+デッキプレート【上面フランジ】が同深度内に表示

表面8cm~12cmのスライス画像



表面10cm~14cmのスライス画像



デッキプレート【上面フランジ】

マイグレーション処理波形(断面)



断面画像(ライン7)の2D断面画像
※ 4本の鉄筋とデッキPの上下フランジが表

(参考)通常の2D断面波形

